

週間感染症情報

2022年43-45週 2022年10月24日より2022年11月13日まで

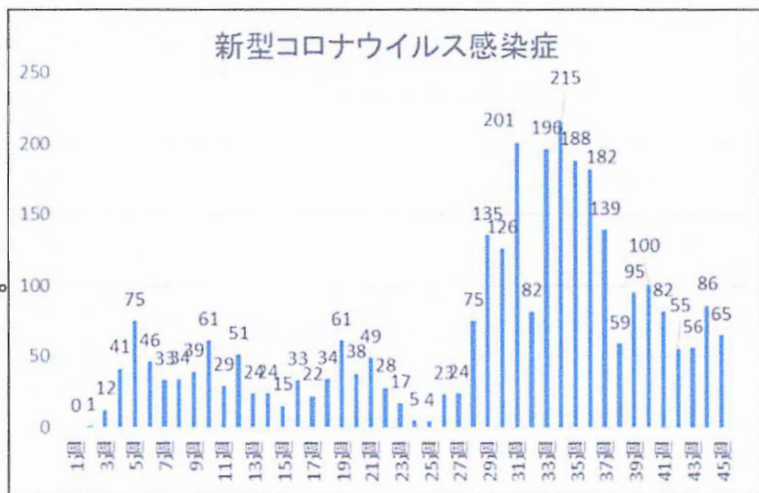
43週 44週 45週

麻疹			
風疹			
水痘(みずぼうそう)	2		1
ムンプス(おたふくかぜ)			
百日咳			
溶連菌感染症	2		
手足口病	7	16	5
ヘルパンギーナ	1		
伝染性紅斑		1	1
感染性胃腸炎	12	9	27
ロタウイルス(再掲)			
便アデノウイルス(再掲)			
突発性発疹	4		
伝染性膿痂疹(とびひ)		3	
ヘルペス性口内炎			
アデノウイルス感染症		1	1
RSウイルス感染症	1	2	1
マイコプラズマ感染症			
ヒトメタニューモウイルス	2	0	1
インフルエンザ			
インフルエンザ A	1		
インフルエンザ B			
新型コロナウイルス感染症	56	86	65

遅くなりましたが、43-45週の3週間の報告です。左下のグラフの様に新型コロナウイルス感染症の報告数は下がりきらずに上昇傾向です。さらに、45週末より市内中学校で部活を介して感染が広がり、1.2年生が学年閉鎖となりました。その後家族内感染を起こして小児での感染が増加しています。小児でのワクチン接種率が20%・罹患率は20%で残り60%はコロナに対して免疫がありません。高齢者のワクチン接種率は90%以上で、元気な70代80代では軽症で感冒程度ですんでいます。本人もコロナとは思わず「風邪薬を下さい。」と普通に外来を受診します。検査をすると陽性のことがあり慌てます。ワクチンの効果を実感しています。私も5回接種を済ませ、ほっとして発熱外来に従事しています。当院の発熱外来は、40代から70代の高齢者で運営しています。診療しながらですので、問い合わせは増加していますが、検査人数を増やすことも困難です。インフルエンザワクチン接種希望者は、昨年と比べると減少しています。接種時には、小児にはコロナワクチン接種を勧めています。これからは、小児のコロナ感染者が増加すると危惧しています。接種できる人は早めに接種して、自分と周囲の接種できない人を守ってあげてください。

43週のインフルエンザAは、真備地区の先生からの報告です。コロナとの同時流行が心配されていますが、ワクチン接種とマスクの着用・手洗い・換気など、今まで通りの感染対策で防ぐことができることが、この2年間で証明されています。

何より大切なことは
「体調不良の場合は休む」です。無理して、登校・出勤して周囲に感染を広げて、結局大きな迷惑をかけています。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)